

開催報告 第16回シンポジウム（5月27日開催）

情報システム学会 研究普及委員長 中鉢直宏

『人を育てる情報の検索・活用を目指して～情報システムの進化と高度な「情報」との向き合い方を再考する』をテーマに情報システム学会第16回シンポジウムが青山学院大学青山キャンパス14号館にて開催されました。今年も新型コロナの影響も落ち着き2年連続の対面開催となりました。参加人数29人（正会員22名、非会員7名）と昨年の開催の参加者28人（正会員21名、非会員7名）とほぼ同じくらいの参加者となりました。全体を通して、素晴らしい講演と活発な議論が行われ、本学会にとって充実したシンポジウムとなりました。

本シンポジウムでは、基調講演は神門典子先生（国立情報学研究所情報社会関連研究系教授）、記念公演は昨年の浦昭二記念賞を受賞した横澤昌典氏（向洋電機土木株式会社 CHO 広報部部长）とビル・トッテン氏（株式会社アシスト 代表取締役会長）にご登壇いただきました。

神門典子先生からは、「『学びとしての検索』探索的情報検索過程の理解と利用者支援、そしてその先へ～人と情報のあいだをつなぐもの～」というタイトルで、検索の本質についてお話しいただきました。国際的な「Search as Learning」というムーブメントに関する研究やそのコミュニティについて紹介され、様々な探索的なインタラクティブ検索に関する説明や、探索にまつわる教育事例や取り組みについての紹介やそのお考えをについてお話しいただきました。

横澤昌典氏には、「ITでない中小企業のDX」という表題で、建設業の中小企業が、様々なアイデアによりDXやIT化の実現したかについてお話しただけでした。その様々な取組によりどのような高い成果を上げたか、その理由やアプローチについて事例を通して紹介して頂いた。横澤氏のアイデアと行動力により、コンサルタントなど頼らず、自社構築で実現した方法についてユニークな取組みとともに紹介いただきました。

ビル・トッテン氏からは「ビル・トッテンの言いたい放題2023～メディアは事実を報じない～」という表題で、メディアが流す「ニュース」の信ぴょう性についてお話しただけでした。メディアに対して、正しい判断をしているか、今一度確認する大切さについてロシアとウクライナの戦争や、中国と台湾の問題、コロナなどの世界情勢に関する報道の事例を通して既存メディアとは、異なる切り口について伝えていただきました。

開催後のアンケートでは、「講演の内容に興味を持ってましたか」という質問には、回答者8名中8名の全員からポジティブな回答を得ることができました。シンポジウムの参加の目的質問には、「テーマに関心があったため」「情報収集」「情報獲得」「人間中心の情報システムに関連する事例を得るため」などのコメントをいただいた。アンケート全体を通して、おおむね好評な回答やコメントを得ることが出来ました。